

井戸ばた会議

2月号の★募集テーマから

ケアマネジャー離れ？ 私から一言

本人の生活まで見て、ケアマネジメントを駆使して支える仕事に、介護職とは違った醍醐味を感じている人が多いと感じました。総合事業のデイを立ち上げて地域づくりに取り組む人も。ケアマネの高齢化も課題という意見もありましたが、その長年の経験を生かし、地域をまるごと見守ってほしいです。(ボクみたいな独身の若者支援とか…)

ケアマネの活躍の場 介護保険だけじゃない

栃木県 池澤育子 62歳

独立ケアマネです。

ケアマネジメントにできることは、介護保険のサービスをつなぐことだけではありません。

昨年、仲間と総合事業の通所B型を立ち上げました。

私は民生委員もしていて、地域を回ると定年を迎えた人が1日を持って余しているのが気になっていました。居場所づくりと介護予防が同時にできればいいと考えていました。仕事を通して知り合った元市役所職員などの協力で形にできました。土地と建物、私やメンバーの貯金で購入。居宅も併設しました。現在、週2回

のペースで開催。利用者は多いときで月に数名とまだまだ少ないですが、仕事の幅は介護保険の枠組みを超えて広がっていきそうです。例えば、学校帰りの子どもと高齢者の交流会を企画したり、住民から相談された、ひきこもりの人にどうアプローチするか考えたり。ケアマネの仕事とは違ったやりがいを感じています。

人生の大先輩に 教わる姿勢でかかわる

東京都 ゆっき 60歳

「あんな仕事は2度とやらない」と、ケアマネの資格を持ちながら話す生活相談員やサ責さん、私の周囲には何人かいます。何があったの？と聞きたいところですが、何となく想像はできます。私も、理不尽なことで家族にお叱りを受け、心ない言葉に自信を失うこともしばしばあります。でも、大先輩である利用者の、今後の「人生」にかかわる仕事をしていると思うと、十数年前の自分からは随分と変化し、進歩したと感じています。

ケアマネジャーは、ハードな仕事です。しかし、自律心と内省の心を常に持続させ、家族や利用者から教わるというスタンスで仕事をするように心がけていると、楽しさもあります。

私自身、60歳を過ぎていますが、利用者さんの年齢からはまだまだ、「私の若い頃はね～」という年代です。これからも、教えていただく姿勢を忘れず、ケアマネ道をゆっくりですが、歩みたい。そして一緒に歩んでいけるケアマネ仲間が増えてほしいと切に思っています。

相談援助は 介護と違うやりがいがある

埼玉県 M・K 43歳

基礎資格は、管理栄養士です。

ケアマネになったきっかけは、介護職との連携をもっとスムーズにしたかったからです。

介護の知識を学べて、介護職の気持ちに分かればいい。長く実務はしなかつもりでした。

でもケアマネになり、利用者にかかわるうちに、相談援助の仕事の楽しさに少しずつはまっていきました。きっかけの一つは新人時代、独居で認知症の利用者にかかわったことです。お金の管理ができず、アパートの家賃を滞納。デイの利用も拒否していました。

介護保険のサービスだけでは解決できないと分かって、当時はどんな制度があるのか分からず悩みました。自分で調べて成年後見制度のことを知って、地域の相談窓口から行政書士へつなぎました。貯金し、少しずつ家賃も支払えるようになった。すると本人の表情が明るくなり、嫌がっていたデイにも通うように。さまざまな資源を使って利用者の生活を支え、本人の意欲や残された力を引き出す支援、苦勞することも多い

ですが、やりがいを感じています。昨年、社会福祉士も取得しました。

ケアマネ離れ 仕方がないと思います

h.s

結局、身体介護ができる人は介護職をやっています。

体力的に限界を感じたころからケアマネを考え始めます。

専門研修でも同じようなことを聞きます。

でも実際やってみると、50代以下の人は介護職に戻っています。私の市では70代のケアマネが多くいます。介護職が無理になってきて、ケアマネでいる人が多いのかなと感じます。

私は40代ですが若い方です。

研修に行くと、利用者なのかケアマネなのか分からないぐらいの人がたくさんです。

合格者の2割しかケアマネをやらなそうですが、今後、要支援の人は市で対応すればそれほど多くのケアマネは必要ないと思っています。

投稿用紙 (p.53) もしくは、メール投稿 (caremane@kankyo-news.co.jp) で掲載された方には、**1,000円の図書カード**を差し上げます。